



アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No. 25 / 2008 年 5 月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第 25 号をお届けします。
今回は、アンテナ・伝播研究専門委員会の 2008 年度体制と、今年 10 月 27 日（月） - 30 日（木）に台北（台湾）で開催予定の 2008 年アンテナ伝播国際シンポジウム（ISAP2008）についてお知らせします。

【1】2008 年度アンテナ・伝播研究専門委員会の体制

電子情報通信学会は、5 月 27 日（火）に開催される第 82 回通常総会をもって新年度の体制に移行します。これに伴い、アンテナ・伝播研究専門委員会も新体制に替わります。

委員長	堀 俊和	（福井大学）
副委員長	牧野 滋	（金沢工業大学）
幹事	岩井 誠人	（同志社大学）
	陳 強	（東北大学）
幹事補佐	西森 健太郎	（NTT）

研究専門委員会の新体制への移行に伴い、AP 研各種委員会の体制も替わります。

WS 常設委員会	委員長：	宇野 亨	（東京農工大学）
	幹事：	宮下 裕章	（三菱電機）
論文委員会	委員長：	堀 俊和	（福井大学）
	幹事：	山口 良	（NTT ドコモ）
国際委員会	委員長：	伊藤 公一	（千葉大学）
	幹事：	長 敬三	（NTT ドコモ）
	幹事補佐：	道下 尚文	（防衛大学校）
出版委員会	委員長：	澤谷 邦男	（東北大学）
	幹事：	庄木 裕樹	（東芝）
アンテナ歴史委員会	委員長：	塩川 孝泰	（東北学院大学）
	幹事：	菊間 信良	（名古屋工業大学）
	幹事：	小西 善彦	（三菱電機）
	幹事補佐：	有馬 卓司	（東京農工大学）
表彰委員会	委員長：	唐沢 好男	（電気通信大学）
	幹事：	山田 寛喜	（新潟大学）
	幹事補佐：	鷹取 泰司	（NTT）

新しい体制での 2008 年度上期研究専門委員会は、6 月 19 日（木）に機械振興会館において開催されます。

【2】2008年アンテナ伝播国際シンポジウム (ISAP2008)

アンテナ伝播国際シンポジウム (ISAP) は、アンテナ、電波伝搬、電磁界理論とそれらの関連システム・技術を中心に各種の新しい電波利用技術への応用を含む分野を対象として学術研究論文の発表・討論を行い、最新の情報と意見の国際交流によりこれらの技術分野の発展と新しい研究の発掘を推進することを目的としたものです。ISAPは、電子情報通信学会主催で、1971年以来、当初7年毎、1985年以降は概ね4年毎に開催されております。その後、ISAPの海外展開を図り、ISAP2005を韓国ソウルで、ISAP2006をシンガポールで開催し、ISAPは、米国のAPS、欧州のEuCAPとならび、アジア太平洋地域で開催されるアンテナ、電波伝搬関連の中心的会議として定着しつつあります。昨年8月に新潟で開催したISAP2007は、第12回ISAPとして3年ぶりに日本で開催されたものです。なお、今年10月に台北(台湾)で開催するISAP2008からしばらくの間は海外での開催となる予定で、次に日本に戻ってくるのは2012年頃になりそうです。

さて、ISAP2008の概要は下記のとおりです。詳細はISAP08のホームページURLをご覧ください。**投稿締切日(5月31日)**が迫ってきています。日本からの多くの投稿が期待されておりますので、よろしく願いいたします。

記

- (1) 日程：2008年10月27日(月) - 30日(木)
- (2) 場所：台北国際コンベンションセンター(台湾)
- (3) オーガナイザー：Communications Research Center, Yuan Ze University
Oriental Institute of Technology
- (4) 論文投稿締め切り：2008年5月31日(土)
- (5) ISAP08ホームページURL：<http://www.isap08.org/>

【3】AP研副委員長の戯言

金沢に移って半年が過ぎました。心配していた冬も雪が積もったのは数回だけで、あわてて購入したスタッドレスタイヤのありがたみを感じる間もなく、通常タイヤへ交換することになりました。

さて、4月から講義が始まり、また、研究室に学生が配属されてきて、急に忙しい身になりました。これまでボーと無為に過ごしてきた半年間を反省しているところです。「電気磁気学」とかという講義も担当することになりましたが、学生時代に授業に出たこともほとんどなく(それでも単位をもらって卒業できたのですから、当時の大学はよかったですね)、約30年間の会社での研究生活においても特定の式以外は必要なかったため、ほとんどゼロからの勉強です。高校の物理の教科書から国内外の教科書まで、10冊以上の電磁気関係の本と格闘しながら講義の準備をしているところですが、読み比べてみると、重要な関係式を説明する(教える)方法や順番がそれぞれ微妙にどうか、少なからず異なっていて、電磁気に対する著者の先生方のこだわり、流儀といったものを感じますし、そこに至るまでのご苦勞も感じます。ということで、私なりにこの電磁気学という美しい学問体系の全体像を理解し、私の流儀というものを作り上げていければと思っています。でも、時間がかかりそうですね。



<問合せ先>

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 牧野滋(金沢工業大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org